海洋資源の保全と持続可能な観光

法文学部　准教授　福井　栄二郎

福井研究室では、南太平洋のヴァヌアツ共和国でこれまで文化人類学的な調査を行ってきました。他の太平洋の島嶼国と同様、ヴァヌアツの主幹産業は観光です。南の島ならではの青い海、白い砂浜、揺れるヤシの木といった「楽園」イメージだけでなく、弓矢を持った「人喰い族」が闊歩する「野蛮」「未開」のイメージも、観光客は求めています。

ヴァヌアツ・最南端のアネイチュム島には大型のクルーズ船が頻繁にやってきます。島の人口は900人余りですが、クルーズ船には一度に1500～2000人の観光客が乗船しています。早朝に投錨した後、夕方までの半日間、観光客は下船して日光浴や海水浴、そして買い物などを楽しみます。

この島には、本来、電気やガスといったインフラが整備されていません。もちろんゴミ焼却施設などもありません。観光客が出したゴミはすべてクルーズ船に持ち帰ります。またウミガメやサンゴなどの海洋動物・海洋資源への負荷も最小限に抑えるよう、現地社会と旅行会社が協力して観光客に訴えかけます。

しかし、自給自足の島に大量の現金が落ちることは、それだけで島の社会構造に大きな影響を与えてしまいます。人々の生活もだんだんと変化していき、最近では観光に反対する人まで出始めました。持続可能な観光開発とは何かを考えるとき、太平洋の小さな島から得られる知見は、決して小さなものではありません。

クルーズ船から小型タグボートに乗り換えて下船
（ヴァヌアツ、2011年）

観光客に海洋資源の保護を訴える看板
（ヴァヌアツ、2011年）